

春よ来い

第六八七回

塗り絵(2)

もう五〇年ほどの付き合いになるのに、まったく気づきませんでした。青年時代は長距離ランナーだったトシイチさんが塗り絵の技術を身に付け、インターネットで発表するまでになつていったのです。

先日、おじゃました時、お連れ合いのヒロミさんが数枚のコピーを綴じたものを私に見せてくださいました。手にとって見ると、「ものと語りオンライン」ホームページの発表会「開催レポート」とあります。

「あら、葉月さんの名前もある。この人、よく知っている人だよ」と言うと、ヒロミさんが、「橋爪さんのチラシに無印(良品)でのイベントのことが書いてあって、そこに佐藤さんの名前も載っていたので気づいてたんですよ」と言いました。

これで事情が呑み込めました。ヒロミさんは、私が障がい者の文化芸術活動に関心を持っていることを知り、それで、トシイチさんの作品づくりと今回の発表会のことを私に伝えたかったのです。

レポートには、トシイチさんの一二枚の絵が並んでいました。白黒のコピーでしたので色の塗り具合などはまったくわからなかったのですが、絵は昔話・『笠地蔵』の話です。なかなか良くてびっくりしました。

そして、「一連の塗り絵は、色鉛筆やパステルを指で塗り延ばしたりしながら、細かく色を調整されているとのこと。確かに、吹雪を受ける木々や、雪深いシーンをグレーで幻想的にあげていらつしやいますね」というコメントもありました。

私は、「えーっ、パステルも使って、指

で延ばしているの。すごいね。おれも色鉛筆やクレヨンを使っていただけで、最近ではコピックペンを使っているんだわ。使いやすいもんだから」と言いました。その後、スマホ内に保存してある描いたばかりの絵も見てもらいました。

すると、ヒロミさんは、レポートでも紹介されていた「都道府県にちなんだイラストに隠し文字を入れて楽しんでいる」というトシイチさん制作の実物を居間のコタツのテーブルの上に持ってきてくださいました。たしかにレポートに書いてあった通り、とても美しく塗り分けてありました。

すべての絵に、「どこの県でしょうか？」という文字が書かれています。一枚目は水戸の御老公と納豆の絵が描かれていましたから、茨城県であることはすぐわかりました。二枚目も水木しげるの「つ目の子ども」が描かれていたので、鳥取県だとわかります。しかし、どちらも県名を書いた文字がなかなか見つかりませんでした。これなら十分楽しむことができます。よく考えて描かれた絵でした。

トシイチさんは五〇歳の時に脳の病気で倒れ、右の腕や手などが思うように動かさなくなりました。その後、柿崎区の介護施設に通いながら、リハビリに努めてきました。そのリハビリの一環として、塗り絵に取り組んできたのです。

トシイチさんによると、最初は硬いボールペンをを使い、その後、一〇〇年の間に鉛筆、シャープペンシルと、徐々に柔らかいものを使えるように鍛えたそうです。いまでは右手にパステルを持ち、左手で紙を動かしながら塗り絵を楽しんでいます。

トシイチさんは、ケアマネさんなどから次は紙芝居に挑戦したらと勧められているそうです。本人もその意欲はあるようで、ひよっとすると、来年あたり紙芝居用の絵が出来上がるかも。こりゃ、楽しみだ。

母親への感謝の気持ちを込めた絵本

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月1日(水)	12月8日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.053	0.057
頸北消防署	0.057	0.057
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.047	0.047
名立分遣所	0.060	0.063
高士分遣所	0.057	0.057

上越市出身の佐藤正幸さんが『けんたのさんりんじてんしゃ』という絵本をこのほど出版され、それをプレゼントしていただきました。本は病気で入院中のお母さん(吉川区片田出身)への感謝の気持ちを伝えるために、少年時代の自転車乗りについての思い出を元に書かれた物語です。

三輪車を改造し、二輪の自転車にしようとして失敗した「けんた」少年。「けんた」は母ちゃんにしかられると思いつつも正直にことのいきさつを話します。すると、母ちゃんは「そうか、そうか」と言って「けんた」の頭をなでてくれて……。失敗してもいっぱい応援したい母心が伝わってきて、読む者の胸を打ちます。

佐藤さんの文も素敵です

が、中北幸次さんの挿絵がとてもあたたかくて、ほれほれしてしまいました。

本の中で使われている米山さんの写真は私の撮影です。私の写真を使っていたのは吉村恵美子さんの『やまぼうしの歌』(北越出版)に続いて、今年は2冊目です。

